

## 平成23年度開催公開講座一覧

| 担当      | 講座名  | 講座内容  | 担当講師  | 開催日  | 会場                            | 参加人数 |
|---------|--|---|---|--|-------------------------------|------|
| 公開講座委員会 | 社会と数学一役に立つ数学   | 社会現象の理解や実践に、数学の重要性はいよいよ増していることを、いろいろなトピックを通して解説する。  | 根上生也 教育人間科学部教授<br>今野紀雄 工学研究院教授<br>桜井 進 東京工業大学世界文明センターフェロー<br>小林正人 国際科学研究科教授<br>宇井貴志 経済学部教授<br>小島寛之 帝京大学経済経済学部教授 | 10月 7日 (金)<br>10月14日 (金)<br>10月21日 (金)<br>11月 4日 (金)<br>11月11日 (金)<br>11月18日 (金) | 横浜ビジネスパーク大会議室                 | 810  |
| 教育人間科学部 | 日本と中国との関係を考える<br><small>共に発展する関係を構築するにはどのような努力が必要か</small>         | 中国はGDPは日本を抜いて世界第二位となりました。改革開放政策に転じて以来、確かにめざましい経済発展を遂げています。新興国、とりわけ中国の発展は日本の発展にプラス効果をもたらしているにも関わらず、どのように受け止めたらよいのか、戸惑いや反感すら感ずる傾向も見受けられます。隣国である中国の現実をどうとらえ、どのようにつきあっていけばよいのか、具体的な事例を示しつつ、ともに考えていきたいと思ひます。 | 村田忠禧 教育人間科学部教授  | 10月8日 (土)  | 教育人間科学部講義棟7号館101教室            | 72   |
|         | 落語と中国の古典<br>—「既火事」をめぐる—  | 今年は、『論語』郷党篇の「厩 焚けたり。…」の一節をもとにした、「既火事」を取りあげます。儒家の諸説を原文で読むことから始め、落語の鑑賞の後、中国や日本の類話と比較してみたいと思ひます。なお、この講座は今回が最終回となります。   | 岡田充博 教育人間科学部教授  | 10月22日 (土)   | 教育人間科学部講義棟7号館101教室            | 70   |
|         | 学び直しの小学校理科<br>(物理編)<br><small>～電磁気に関する実験やものづくり～</small>            | 小学生がどんな勉強をしているのかを知りたいお父さんやお母さん、理科に苦手意識のある学生みなさん、もう一度、小学校理科を学んでみませんか？実験やものづくりを通して、小学校理科で学ぶ電磁気に関する基本的な内容を再確認していきます。   | 平島由美子 教育人間科学部准教授  | 11月12日 (土)   | 教育人間科学部第2研究棟316室<br>(物理学大実験室) | 13   |
|         | 気持ちよいストレッチと身近な環境でできる体力増進運動   | 身近な環境でも、工夫次第で多様な運動を行うことができます。本講座では、健康・体力増進のための目標の立て方とそれに応じたトレーニングプログラム立案の方法を、講義と具体的な運動の行い方の紹介の実技講習を行いたいと思ひます。   | 伊藤信之 教育人間科学部准教授   | 11月12日 (土)   | 教育文化ホール中集会室                   | 17   |
|         | 環境に優しく快適な被服を科学する<br><small>～クールビズ・ウォームビズの実践のために～</small>           | 私たちの毎日の生活に欠かせない“衣服”、あまりに身近で普段あまり考えずに身につけていませんか。ファッション性も気になる衣服ですがクールビズやウォームビズに象徴されるような地球環境保全にも貢献しつつ、かつ健康的で、快適な衣生活を営むためには、なにが重要であるのか、一緒に考えましょう。   | 薩本弥生 教育人間科学部教授  | 11月13日 (日)   | みなとみらいキャンパス                   | 8    |
|         | 落語『らくだ』の楽しみ  | 落語に『らくだ』という噺がある。人気の高い大ネタで、古くは志ん生や六代目松鶴、近年なら談志や小三治といった師匠連がやっていて、録音も数多い。しかし、これがじつに不思議な噺であり、例えば、なぜ死人にカンカンノウを踊らせるのかといった謎は解説されることがない。そうした点を含め、この噺の魅力と謎に迫る。   | 川添 裕 教育人間科学部教授  | 11月26日 (土)   | みなとみらいキャンパス                   | 27   |
| 経済学部    | 中国の現状と歴史   | 最近ますますホット・ 이슈となりつつある中国を題材に、同国を専門とする教授・准教授からそれぞれ得意分野(中国の経済政策・環境問題・海防など)のトピックにつき、その現状もしくは歴史について講義していく。なお、最終回には、本学大学院国際社会科学研究科長を司会とするディスカッションを予定している。  | 木崎 翠 国際社会科学研究科教授<br>氏川恵次 国際社会科学研究科准教授<br>村上 衛 京都大学准教授<br>長谷部勇一 国際社会科学研究科教授                                      | 11月16日 (水)<br>11月30日 (水)<br>12月 7日 (水)<br>12月14日 (水)                             | 横浜国立大学教育文化ホール<br>中集会室         | 121  |
| 経営学部    | 「横浜ビジネススクール」一体験講座<br><small>マネジメント、ファイナンス・アカウンティングのフロントライン</small> | 2004年開講以来、好評を博してきた「横浜ビジネススクール」の内容を体験していただきながら、マネジメント(特にイノベーションとマーケティング)、ファイナンス・アカウンティング(企業年金とセキュリティ)のフロントラインを紹介していきます。  | 山口 修 国際社会科学研究科教授<br>高橋正彦 国際社会科学研究科教授<br>岡田依里 国際社会科学研究科教授<br>谷地弘安 国際社会科学研究科准教授                                   | 9月 3日 (土)<br>9月10日 (土)<br>9月17日 (土)<br>9月24日 (土)                                 | 横浜国立大学教育文化ホール<br>中集会室         | 92   |

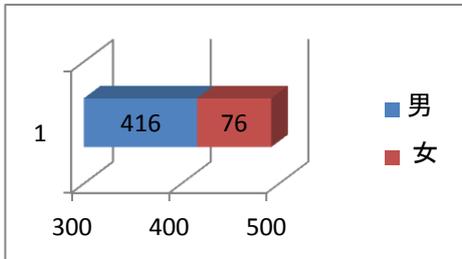
| 担当                          | 講座名   | 講座内容   | 担当講師   | 開催日                                   | 会場  | 参加人数 |
|-----------------------------|---|--|--|---------------------------------------|---|------|
| 国際社会科学研究所                   | 海洋政策・法制特論<br>日本の海洋問題を多角的に考える  | 日本の領海・排他的経済水域（EEZ）の抱える諸問題、たとえば領土・境界画定問題、沖ノ鳥島問題、東シナ海問題などを俯瞰するほか、世界の海洋法の歴史、さらにわが国の海洋基本法・基本計画などの重要政策を論じる。   | 中原裕幸 統合的海洋教育・研究センター特任教員（教授）  | 10月5日（水）<br>～2012年2月8日<br>（水）         | 国際社会科学研究所棟601号室   | 22   |
| 工学研究院                       | 第5回 海洋空間のシステムデザインカップ ひれ推進コンテスト  | 本コンテストでは、高校生に海や船・物造りの魅力を伝えるために講義とコンテストを実施する。まず7/18(月(海の日))に船や魚のひれに関する公開講座として講義を実施する。その後、8/27までに各高校の参加チームにひれ推進模型を製作してもらい、これらを大型実験水槽にて走らせ、そのスピードを競うコンテストを行う。なお、講義の内容は以下の通りである。「（1）船はどんなふう浮くの？（2）船はどうやったら速く走れるの？（3）魚はどんなふう泳ぐの？」   | 鈴木和夫 工学研究院教授<br>和田大志 工学研究院准教授<br>村井基彦 環境情報研究院准教授<br>川村恭己 工学研究院教授<br>平川嘉昭 工学研究院研究教員<br>高山武彦 工学研究院研究教員   | 7月18日（月・祝）<br>8月27日（土）                | 船舶海洋工学棟3階講義室、大型実験水槽   | 128  |
|                             | 実践機器分析基礎講座  | 機器分析・観察の初心者及びこれから始めようとする方を対象に、測定の原理および分析に必要な基本的な知識と技能を身につけていただくための講座です。本講座では、核磁気共鳴装置（溶液または固体）・質量分析装置・走査型電子顕微鏡・電子線マイクロアナライザー（EPMA）・透過型電子顕微鏡を用います。   | 内藤 晶 工学研究院教授<br>川村 出 工学研究院助教<br>金子竹男 工学研究院特別研究教員<br>廣田 洋 機器分析評価センター客員教授<br>吉原美和子 機器分析評価センター准教授<br>根岸洋一 機器分析評価センター技術専門職員<br>近藤正志 機器分析評価センター技術専門職員<br>石原晋次 機器分析評価センター技術職員  | 8月25日（木）                              | 横浜国立大学機器分析評価センター  | 8    |
|                             | 持続可能な水道システムの確立  | 水道管路は重要なライフラインである。我が国では高度経済成長期に多数の管路が敷設された。最近それらが更新時期を迎えており更新・耐震化計画の策定・実施が急がれている。<br>一方、3月11日に発生した東日本大震災は震災地のライフラインに深刻な損傷を与えた。水道システムについては全国の水道事業者の支援を得ることで早期の復旧を行うことができたが、この間の事情を現場において実際支援を行った当事者を中心として報告する。同時に、今回の災害から学んだことをレビューし今後の災害に備える知恵を涵養するためのパネルディスカッションを行う。本講座は座学及び学外の管路研修施設での体験実習からなり、これらの水道システムを経済的かつ効率的に更新、保全する方法を学術的な立場と実務的な立場の両面から考究することを目的とする。 | 朝倉祝治 名誉教授（工学研究院）<br>有吉寛記 さいたま市水道局給水部参事<br>亀山 充 川崎市上下水道局水道部管理課長<br>古米弘明 東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター（都市工学専攻）教授<br>宍戸由範 横浜市水道局給水課課長補佐給水係長<br>霜村 潤 (株)栗本鐵工所パイプシステム事業本部 事業企画部開発グループ長<br>永井 康敏 横浜ウォーター株式会社 取締役GM)<br>永森 保行 大成機工株式会社開発部係長<br>林 秀樹 横浜国立大学非常勤講師・横浜市水道局給水部長)<br>福島 真明 (株)水道新聞社取締役<br>細井 篤史 日本原料(株)セールスエンジニアリングサービス部課長<br>翠川 和幸 横浜市水道局給水部中部第一給水維持課長<br>八高 隆雄 工学研究院教授 | 9月28日（水）<br>9月30日（金）                  | 9月28日 横浜国立大学教育文化ホール<br>9月29日 西谷浄水場・西谷管路研修施設<br>9月30日 横浜国立大学理工学系事務棟4階会議室 | 81   |
| —講義・実験を通じて学ぶ—<br>材料の劣化とその対策 | 工業材料は、自らあるいは環境との相互作用によって劣化し、莫大な損失を生ずる。本講座では、実際上の問題点をふまえ、材料の劣化とその対策について平易にかつ学問的な講義を行う。また講義の内容の理解を高め、かつ具体的に体得させるために、実験、実習および演習を併せて行う。                   | 朝倉祝治 名誉教授<br>安藤 柱 名誉教授<br>関根和喜 安心・安全の科学研究教育センター特任教授<br>清水紘治 関東学院大学工学研究院教授<br>東田賢二 九州大学技術本部技術センター教授<br>石井正義 元・日石エンジニアリング工学研究院部長<br>高橋宏治 工学研究院准教授<br>岡崎慎司 工学研究院准教授<br>横山 隆 工学研究院講師<br>笠井尚哉 環境情報研究院准教授<br>澁谷忠弘 環境情報研究院准教授<br>伊藤大輔 工学研究院特別研究員  | 9月5日（月）<br>9月9日（金）   | 横浜国立大学教育文化ホール、工学講義棟C101教室、リカレント教育実験棟他 | 37  |      |
| セラミックス材料の開発と利用のための基礎と実際     | セラミックスをこれから学ぼうとする社会人技術者を対象として、セラミックス材料を構成する原子や分子の性質、材料の物理的、化学的性質について述べ、その材料の成形方法と焼結方法、結晶構造および電氣的、力学的特性に関して解説します。また、諸特性を知るのに重要な状態図の見方を述べるとともに、演習も行います。 | 横山 隆 工学研究院講師<br>岡崎慎司 工学研究院准教授<br>伊藤大輔 工学研究院特別研究員   | 9月15日（木）<br>9月16日（金）   | 工学部講義棟C101教室                          | 2   |      |

| 担当                              | 講座名  | 講座内容  | 担当講師   | 開催日   | 会場                            | 参加人数 |
|---------------------------------|--|---|--|---|-------------------------------|------|
| 工学<br>研究<br>院                   | 実務技術者のための機器<br>分析入門<br>ー走査型顕微鏡・X線マ<br>イクロアナライザー・X<br>線回折ー  | 初めて走査型顕微鏡、X線マイクロアナライザー、X線回折の各装置をあつかう者の<br>立場にたつて、各装置の原理、得られる情報、その評価方法と応用などについて説明<br>致します。さらに使用上の注意を述べるとともに、X線による物質の同定方法につい<br>ての演習を行うと同時に、走査型電子顕微鏡の実習も行います。   | 横山 隆 工学研究院講師<br>岡崎慎司 工学研究院准教授<br>伊藤大輔 工学研究院特別研究員   | 9月26日(月)<br>9月27日(火)  | 工学部講義棟C101教室、VBL、機<br>器分析センター | 7    |
|                                 | ー実験実習を通して学ぶ<br>ーセンサの原理と利用<br>法                             | 本講座は、産業界でよく利用される8種類(温度、ひずみ、圧力、光、近接、超音<br>波、ガス、磁気)のセンサデバイスを題材に選び、センサの基本原則と近年の技術動<br>向について講義を行います。さらに講義内容に密着した実験実習を行い、基本的な動<br>作特性の把握と駆動方法について実体験を通して習得できます。  | 塩澤浩明 新コスモス電機(株)課長<br>岡崎慎司 工学研究院准教授<br>横山 隆 工学研究院講師<br>伊藤大輔 工学研究院特別研究員  | 10月 5日(水)<br>～<br>10月 7日(金)<br>11月10日(木)<br>～<br>11月11日(金)<br>12月 7日(水) | 工学部講義棟C101教室、リカレ<br>ント教育実験棟   | 4    |
|                                 | エンジニアのための実験<br>講座①<br>ー腐食防食の評価・計測技術ー                       | 本講座では、腐食防食の評価に用いられる電気化学的な計測技術に焦点を当て、その<br>原理と具体的な測定方法について講義と豊富な実験により習得いただけます。講座内<br>容には、電気化学及び腐食防食工学の基礎的内容を把握されていることを前提とした<br>部分もあります。(本学主催の基礎講座等を受講されることをお勧め致します。)   | 岡崎慎司 工学研究院准教授<br>横山 隆 工学研究院講師<br>伊藤大輔 工学研究院特別研究員   | 1月19日(木)<br>1月20日(金)  | 工学部講義棟C101教室、リカレ<br>ント教育実験棟   | 9    |
|                                 | エンジニアのための実験<br>講座②<br>ーステンレス鋼の腐食防食基礎とその対策技<br>術ー           | 本講座は、ステンレス鋼の腐食とその対策技術など多岐にわたる学際的な内容を提供<br>致します。また腐食事例を紹介しながら講義・実験を行いますのでより理解を深めて<br>いただくことができます。なお、受講にあたっては、本内容に関連した本学主催の腐食<br>防食基礎講座をあらかじめ受講されることをお勧めします。  | 遅沢浩一郎 (社)腐食防食協会腐食センターセンター長<br>横山 隆 工学研究院講師<br>岡崎慎司 工学研究院准教授<br>伊藤大輔 工学研究院特別研究員   | 2月16日(木)<br>2月17日(金)  | 工学部講義棟C101教室、リカレ<br>ント教育実験棟   | 13   |
| 環<br>境<br>情<br>報<br>研<br>究<br>院 | 化学物質のリスク評価を<br>考える<br>ー化学物質リスク評価の動向とリスク情報活<br>用・コミュニケーションー | 化学物質審査規制法が改正され、安全性審査の方法が従来のハザード(有害性)評価<br>からリスク評価へと転換されるとともに、事業者が化学品の安全に大きな責任を負う<br>ことになり、産業界でも化学物質のリスク評価を行える人材が益々必要となってきて<br>います。これまで化学物質の総合的なリスク評価研究を先導してきた本学と、我が国<br>のリスク評価手法の検討・実施を担ってこられた製品評価技術基盤機構とが連携し、<br>化学物質のリスク評価の最新動向やリスク情報の活用やコミュニケーション方法に関<br>して講義と演習を行う。 | 益永 茂樹 環境情報研究院教授<br>三宅 淳巳 環境情報研究院教授<br>半井 豊明 環境情報研究院客員教授<br>亀屋 隆志 環境情報研究院准教授<br>小林 剛 環境情報研究院准教授<br>真名垣 聡 環境情報研究院産学連携研究員<br>竹田 宜人 (独)製品評価技術基盤機構化学物質管理センター情報業務<br>課課長<br>村田 麻里子 (独)製品評価技術基盤機構化学物質管理センターリスク評<br>価課専門官<br>吉野 悟 日本大学生産工学部環境安全工学科助教 | 11月 1日(火)<br>11月22日(火)<br>12月 6日(火)                                     | 東京国際フォーラム(予定)                 | 62   |
|                                 | 社会を支えるセキュリ<br>ティ技術<br>ー暗号・バイオメトリクス・コンピュータウ<br>イルス対策のはなしー   | コンピュータやネットワークに囲まれている私たちは、秘密やお金を盗む、記録を改<br>ざんする、他人になりすます、サービスを不正に利用する、システムを不正に停止さ<br>せるといった悪事に対抗するセキュリティ技術の利用者でもあります。本講座では、<br>セキュリティ技術の基本につき、横浜国立大学の専門家がやさしく解説します。  | 松本 勉 環境情報研究院教授<br>四方順司 環境情報研究院准教授<br>吉岡克成 環境情報研究院准教授   | 10月1日(土)  | 横浜国立大学 環境情報1号棟 5<br>階515号室    | 30   |
|                                 | 脳の働きと人工知能の可<br>能性  | 本講座では、人間の脳の生理学的な側面から脳の構造と機能について説明します。自<br>分の頭の中身がどのようになっているのか知る絶好の機会です。さらに、機械工学お<br>よび情報工学の側面から、脳を人工的にコンピュータ上で創る試みについて現状を紹<br>介し、人工知能の可能性について言及したいと思います。  | 森下 信 環境情報研究院教授   | 11月12日(土)   | 環境情報1号棟310室                   | 30   |
|                                 | 身体を知る、身体で知る<br>ー韓国伝統芸能を通して<br>ー<br>IT伝承支援研究・公開講座Part III   | 伝統芸能の伝承を最新情報技術で支援する研究プロジェクトをご紹介すると同時に、受講生が<br>韓国の伝統芸能を通して自らの身体を知り、自らの身体で感じることを目指すプログラムで<br>す。韓国伝統舞踊、楽器の実演と、身体ワークショップがあります。  | 竹田陽子 環境情報研究院教授<br>ソンエスン 韓国伝統舞踏家<br>パクスナ 韓国伝統楽器演奏家<br>チェジュニル 韓国伝統楽器演奏家  | 9月18日(日)  | 教育文化ホール大集会室                   | 62   |

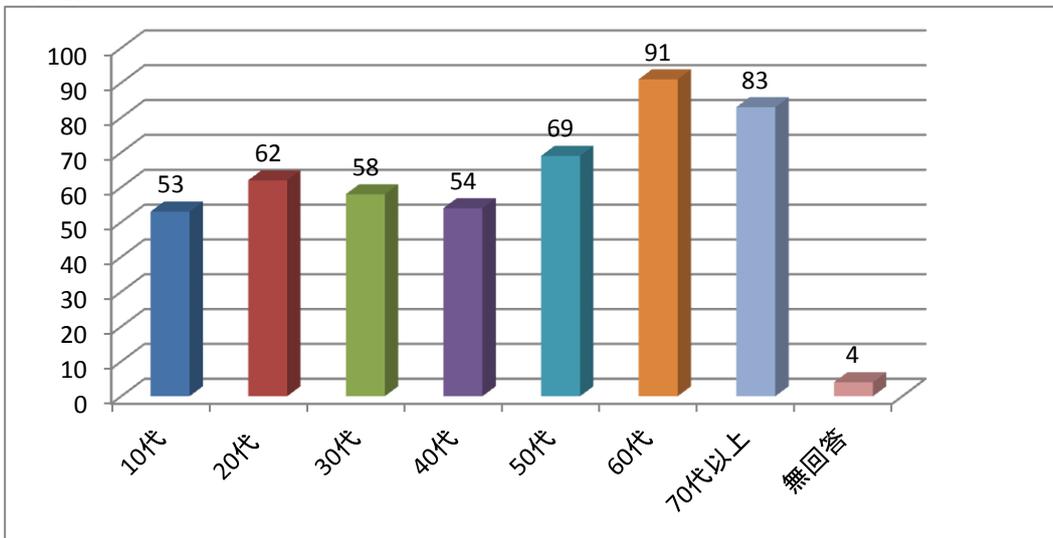
| 担当                               | 講座名                                     | 講座内容  | 担当講師   | 開催日                                 | 会場                    | 参加人数 |
|----------------------------------|---|---|--|-------------------------------------|-----------------------|------|
| 都市イノベーション研究院                     | 都市交通計画最前線2011<br>持続可能な社会の実現に向けての取り組みと課題 | 都市交通計画分野での海外の最新の動向、特に持続可能な社会の実現に向けてのさまざまな取り組みを紹介し、わが国における課題を明らかにするとともに、実際に取り組む際の具体的な課題についての例題演習も行う。   | 中村文彦 都市イノベーション研究院教授<br>岡村敏之 都市イノベーション研究院准教授  | 6月11日(土)                            | 工学部講義棟C201教室          | 142  |
| 留学生センター                          | 日本語で国際交流<br>地域とキャンパスをつなぐ                | 各地で市民ボランティアによる外国籍住民への日本語支援活動がさかんに行われています。国大においても、国大ボランティアの方々が日本語をはじめとした留学生支援活動を活発に繰り広げ、留学生たちは大きな恩恵を受けています。今回は、市民ボランティア(国大ボランティアを含む)の方々から特に要望の多い教授上の項目をとりあげ、日本語の構造や教え方についていっしょに考えるとともに、留学生のキャンパスでの活動と地域での生活をつなげる活動にもご参加いただくきっかけを作りたいと思います。 | 小川誉子美 留学生センター教授<br>奥野由紀子 留学生センター准教授<br>丸山千歌 留学生センター准教授<br>四方田千恵 留学生センター教授  | 6月4日(土)<br>6月18日(土)                 | 留学生センター<br>306        | 36   |
| 統合的<br>海洋教育<br>研究<br>センター        | 統合的な海洋管理を考えるⅡ<br>「海を管理する」・「海を守る」        | 本講座は、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」に関する様々な話題を提供いたします。本講座を通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野を持っていただくことを目的としています。「統合的な海洋管理を考えるⅡ」では、「海を管理する」と「海を守る」に力点を置いた講義を展開します。                               | 中原裕幸 統合的海洋教育・研究センター特任教員(教授)<br>來生 新 統合的海洋教育・研究センター<br>松田裕之 環境情報研究院教授<br>角 洋一 工学研究院教授<br>谷 和夫 都市イノベーション研究院教授<br>村井基彦 環境情報研究院准教授<br>佐々木淳 都市イノベーション研究院教授<br>他 | 4月11日(月)<br>8月8日(月)                 | 横浜国立大学教育文化ホール中<br>集会室 | 70   |
|                                  | 統合的な海洋管理を考えるⅠ<br>「海を知る」・「海を利用する」        | 本講座は、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」に関する様々な話題を提供いたします。本講座を通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野を持っていただくことを目的としています。「統合的な海洋管理を考えるⅠ」では、「海を知る」と「海を利用する」に力点を置いた講義を展開する。                                | 中原裕幸 統合的海洋教育・研究センター特任教員(教授)<br>來生 新 統合的海洋教育・研究センター<br>間嶋隆一 環境情報研究院教授<br>伊藤公紀 環境情報研究院教授<br>津野 宏 教育学研究科准教授<br>菊池知彦 環境情報研究院教授<br>池田龍彦 国際社会科学部研究科教授<br>他       | 10月17日(月)<br>～<br>2012年2月13日<br>(月) | 教育文化ホール中集会室           | 190  |
| 安心・安全の<br>科学<br>研究<br>教育<br>センター | 大規模地震に対する総合的危機管理のあり方                    | 東日本大震災にみられるように、首都直下型地震、東海・東南海地震など大規模な被害が想定される地震発生が切迫しており、人命や社会を守る対策は大学を含む企業体に必須といえる。本講座では横浜市の地震対策、地震関連技術や情報システム、東日本大震災への支援と今後の展望、組織の統合的危機管理について説明する。  | 上原美都男 安心・安全の科学研究教育センター客員教授   | 9月28日(水)                            | 横浜国立大学 工学部講義棟C201     | 116  |
|                                  | 大規模地震に対する都市防災のあり方                       | 東日本大震災の経験により、様々な教訓が得られた。首都直下型地震、東海・東南海地震など大規模な被害が想定される地震発生が切迫しており、人命や社会を守るためには都市の防災対策を進める必要がある。本講座では都市防災における課題や今後の展望について専門家が説明する。   | 福和 伸夫 名古屋大学減災連携研究センター教授<br>佐土原 聡 都市イノベーション研究院教授  | 2月22日(水)                            | 横浜国立大学 工学部講義棟C301     | 76   |

# 各部局開催の公開講座 参加者アンケートの集計結果

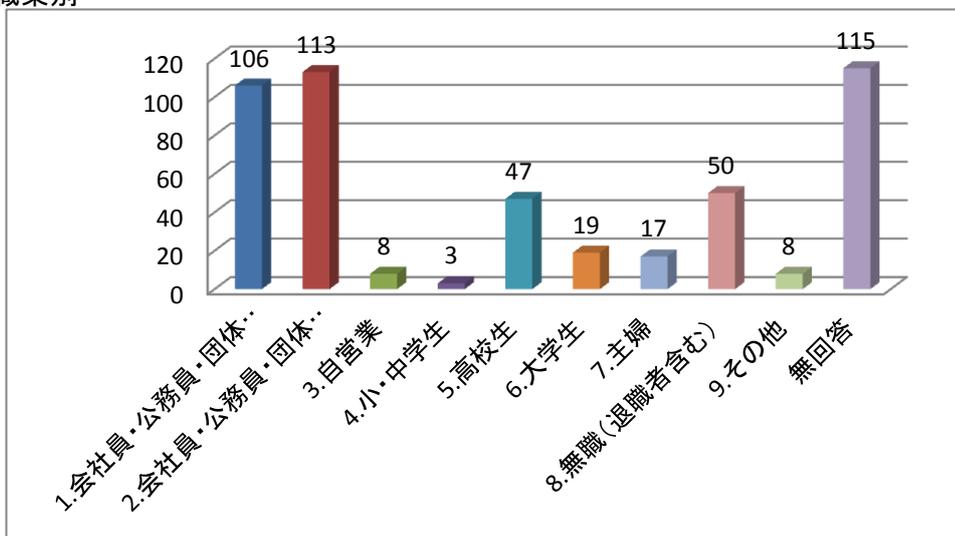
性別



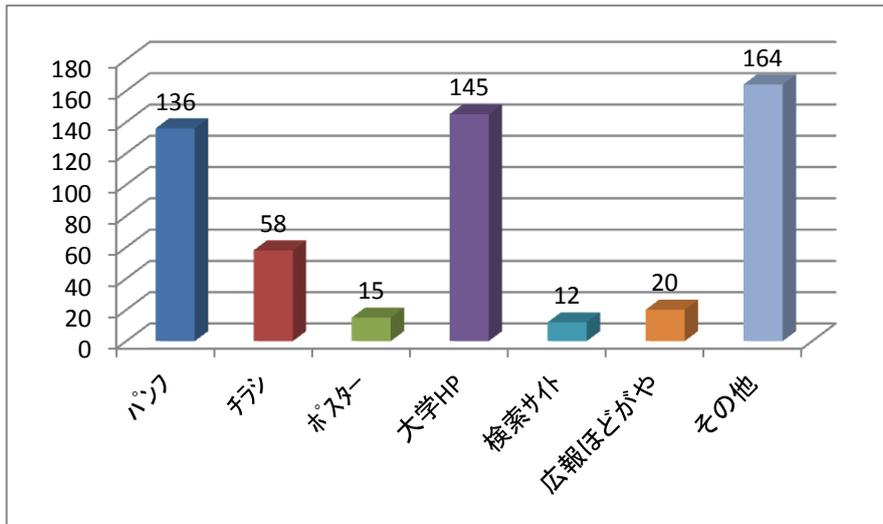
年代別



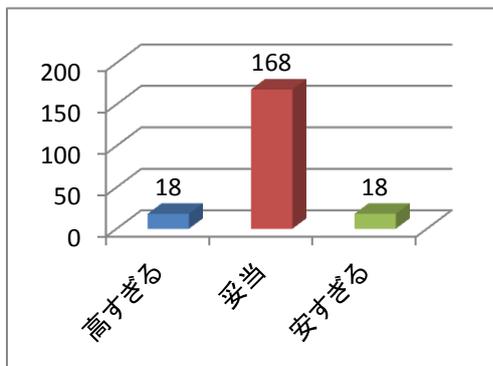
職業別



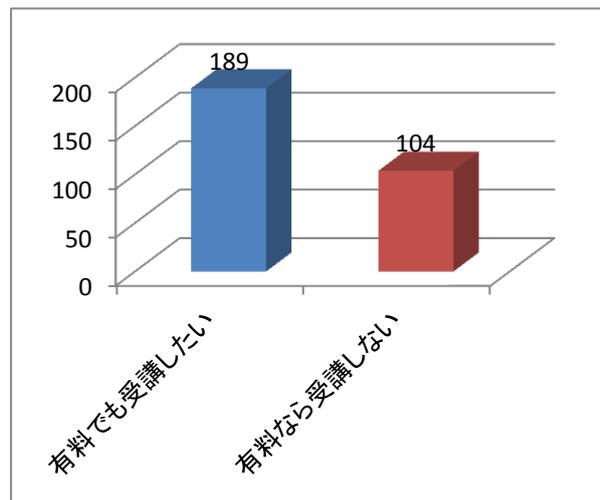
### どこで公開講座を知ったか



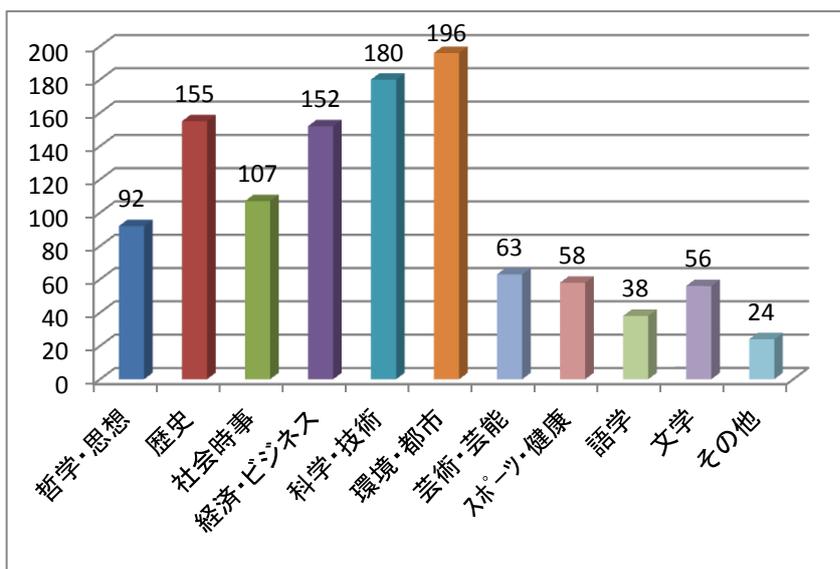
### 受講料について(有料講座の場合)



### 受講講座について有料でも受講するか



### 今後希望するテーマ



# 公開講座委員会主催「社会と数学」実施報告

## ◆総括

本講座は読売新聞横浜支局の共催と、野村不動産の協賛を得て、横浜ビジネスパーク大会議室において開催された。読売新聞での告知、横浜ビジネスパークのアクセスのよさ、昨今の数学ブームなどから、10代から70代以上まで総計244人の申し込みがあった。実際の受講者数は平均135名で、全6日中、5日以上出席した110名の受講者に修了証が授与された。

アンケート結果をみると、数学という抽象度の高い題材を扱ったにもかかわらず、82%の受講者が「よく理解できた」もしくは「ほぼ理解できた」と回答し、93%の受講者が「非常に有意義であった」もしくは「ある程度有意義であった」と回答しており、一定の評価は得られたものと判断できる。

最後に、本年度の全学公開講座の実施にあたって、参加者の方々、告知や記事掲載をしていただいた共催の読売新聞横浜支局の方、会場提供の野村不動産の方、講座のスームズな実施に尽力していただいた事務局の方に感謝いたします。

## ◆申込者数 244名

### ◆申込者の年代

| 年代    | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 | 不明 | 総計  |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|----|-----|
| 人数(名) | 2   | 11  | 22  | 30  | 23  | 51  | 30    | 75 | 244 |

### ◆受講者数（出席カード提出者数）

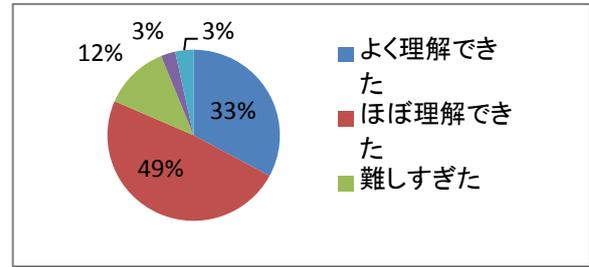
| 開催日       | 講師                         | 受講者数（名） |
|-----------|----------------------------|---------|
| 10月7日（金）  | 環境情報研究院教授 根上 生也            | 154     |
| 10月14日（金） | 工学研究院教授 今野 紀雄              | 143     |
| 10月21日（金） | 東京工業大学世界文明センターフェロー<br>櫻井 進 | 131     |
| 11月4日（金）  | 国際社会科学研究所教授 小林 正人          | 133     |
| 11月11日（金） | 経済学部教授 宇井 貴志               | 121     |
| 11月18日（金） | 帝京大学経済学部 小島 寛之             | 128     |

## ◆修了者数 110名（全6中、5以上出席した者に修了証書を授与）

公開講座委員会主催公開講座アンケート結果

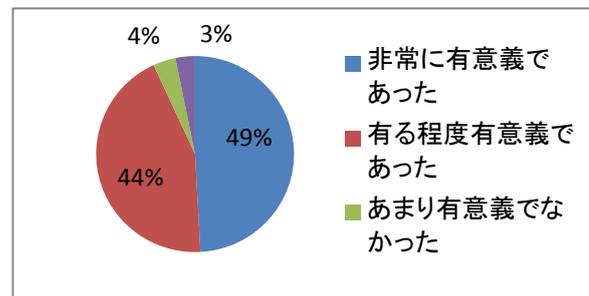
【問1】 講座内容について、いかがでしたか。

|           |     |
|-----------|-----|
| よく理解できた   | 267 |
| ほぼ理解できた   | 395 |
| 難しすぎた     | 100 |
| 物足りなさを感じた | 22  |
| 未回答       | 28  |



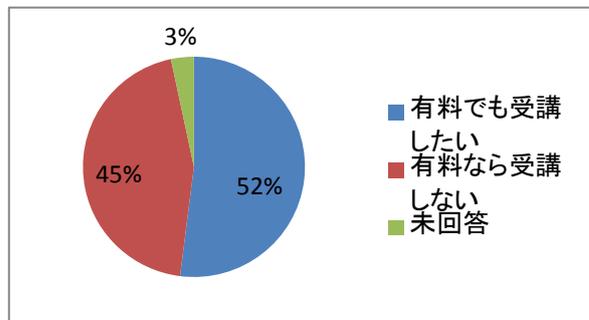
【問2】 受講して有意義であったと思いますか。

|             |     |
|-------------|-----|
| 非常に有意義であった  | 399 |
| 有る程度有意義であった | 357 |
| あまり有意義でなかった | 30  |
| 未回答         | 26  |



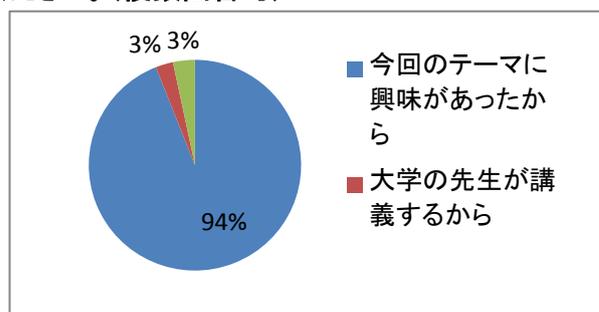
【問3】 次回この講座が有料の場合、受講されますか。

|           |    |
|-----------|----|
| 有料でも受講したい | 78 |
| 有料なら受講しない | 67 |
| 未回答       | 5  |



【問4】 今回の公開講座の受講動機について、教えてください。(複数回答可)

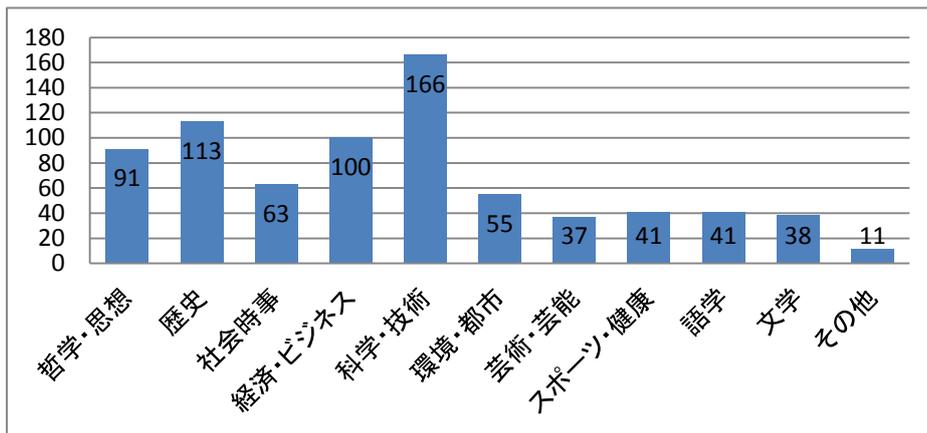
|                 |     |
|-----------------|-----|
| 今回のテーマに興味があったから | 141 |
| 大学の先生が講義するから    | 4   |
| その他             | 5   |



【問5】 今後、どのような内容の講座を希望されますか。(複数回答可)

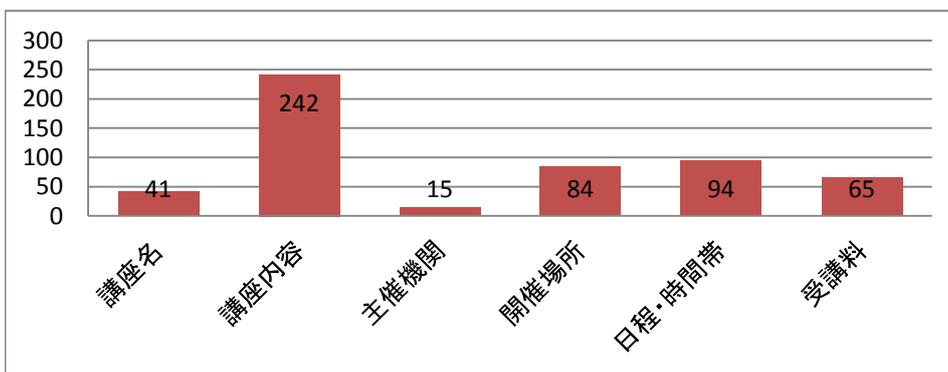
|         |     |
|---------|-----|
| 哲学・思想   | 91  |
| 歴史      | 113 |
| 社会時事    | 63  |
| 経済・ビジネス | 100 |
| 科学・技術   | 166 |
| 環境・都市   | 55  |
| 芸術・芸能   | 37  |
| スポーツ・健康 | 41  |
| 語学      | 41  |
| 文学      | 38  |
| その他     | 11  |

※その他のご意見 円高・円安・金価格・原油・メタン地下ガス層・数学・OPARATION MANAGEMENT・言語学



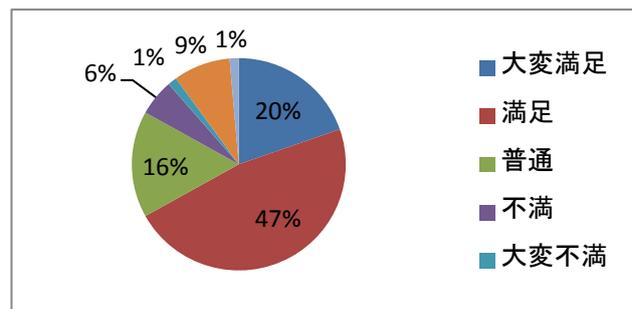
【問6】 公開講座の受講を決める際に、何を重視されますか。(複数回答可)

|        |     |
|--------|-----|
| 講座名    | 41  |
| 講座内容   | 242 |
| 主催機関   | 15  |
| 開催場所   | 84  |
| 日程・時間帯 | 94  |
| 受講料    | 65  |



【問7】 今回の会場について、いかがでしたか。

|      |     |
|------|-----|
| 大変満足 | 57  |
| 満足   | 137 |
| 普通   | 47  |
| 不満   | 16  |
| 大変不満 | 4   |
| 未回答  | 25  |
| その他  | 4   |



【問8】その他のご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。(多数のご意見から一部を抜粋しました。)

第1日目アンケート (講師:環境情報研究院 根上生也教授)

|  |
|--|
| 非常に分かりやすく巧みな話術で時間が短く感じた。機会があれば再度、根上先生の話聞いてみたい。   |
| 興味のある内容であった。「社会に役立つ数学」と題名をつけていただきたいと思った。特に数学「LOGISTICS」と視点でお話いただきたい。特にCGで画を数学GSに展開された講義は有意義であった。   |
| 学習塾で数学を指導しております。自分なりの教育観と重なる部分がありました。先生の考え方が広まることを期待しております。ありがとうございました。  |
| 見て、気づいて、考えて、数学も会社の仕事の進め方と同じですね。エッセイの考え方は知りませんでした。考えてみたいと思います。  |
| 大変面白く拝聴できました。A=B(AだからB)というようTrainingすることで論理的思考を強くすることが出来ることを聞いて、早速我が家で実践しようと考えています。  |
| 公開講座であるので、アカデミックな面が少なかったとは思いますが、数学に触れる機会をどう作り出せばよいかのヒントを得られた。  |
| 数学は自然界と対話するコミュニケーションツールであると認識している。言葉をどうやって身につけるか、親が子どもにどうやって接するか、これも数学のフィールドの1つかもしれません。  |
| かつて計算が得意な学生でしたが、社会に出て数学は計算だけではないと感ずることがあり、今回のテーマに興味をひかれて参加しました。「計算しない数学」については、今回の講義では一部しか触れておらず教育論の方が中心だったという点で物足りなさを感じましたが、根上先生の著作を読みたいと思いました。      |
| 大変興味深く、数学を活用した「物を考える力を養う」という根本に触れられたような気がしました。   |
| とても面白い話を楽しく聞くことが出来ました。知らないことがたくさんあり、刺激されました。根上先生の本を読むことにします。   |
| 大変興味深く講座を聞くことができました。短い時間の中で、講座の構成も素晴らしく、ひきつけられました。情報の専門学校で非常勤講師をしていますが、現在の数学、算数教育に対して疑問に思っていたことを、言葉で、明確にいただいた感じがしました。是非、先生の著書を読みたいと思います。ありがとうございました。 |

第2日目(講師:工学研究院 今野紀雄教授)

|   |
|---|
| 「つながりの数理」ネットワークの確率論を展開し実社会の人の行動に応用された講義であった。特に人間関係のクラスター等に興味が出てきた。どうもありがとうございました。               |
| 限られた時間の中で内容が豊富すぎて理解するのが難しかった。レベルを下げてくださいもう一度聞いてみたいと感じた。ありがとうございました。                             |
| 実社会と結びつけて例を出してくれたので分かりやすかったです。  |
| ネットワークを使う部分と、ネットワークの研究と両方が重要であると感じました。ありがとうございました。  |
| 実社会に生かすことが出来る知識分野であることが分かりました。Web、スマートグリッド等の基礎知識となっているんですね。                                     |
| 社会の理象として、このような数学的思考を考えると大変面白いと感じた。またネットワークの問題(脆弱性など)からどこをどう考え打手をすれば良くなるのかなど応用範囲は広いように感じました。     |
| 参考になる考え方を聞かせていただきました。今後も複雑ネットワーク、ランダムネットワークについても興味を持っていけることと思います。数学分野が一つ広がった感じがします。ありがとうございました。 |
| 「複雑ネットワーク」と社会の状況分析が可能!!おもしろそう。興味がわいてきました。   |
| ちょっと難しかったですが、数学的にネットワークが解けることに驚きました。優しい言葉に置き換えて説明していただき、ありがとうございました。                            |
| 後半の社会に生かされている部分の話が面白かったです。素人でも分かる感じの講座をこれからもお願いします。   |
| 基礎論、具体例、応用とバランスよくお話をくださったと思います。予知には遠いでしょうが未来を予測する数学ですね。   |
| 身近なところで統計学があることが分かりました。   |

第3日目(東京工業大学 世界文明センター 桜井進フェロー)

|  |
|--|
| 社会と数学一役に立つ数学一の中で、数学は人が生きるためにある、情熱的な講義であり、エネルギーに満ちた講義であった。ありがとうございました。  |
| 歴史的に数学が必要としている背学がよくわかった。   |
| とても情熱的で楽しかったです。  |
| 難しかった。難しいながらも有意義だった。先人達の苦勞によってわれわれの生活が成り立っていることに感謝したい。ネイピアという数学者の名前を知っただけでも、そして今後数学に対する興味を駆り立ててくれただけでも有意義と思う。                        |
| 高校以来久しぶりにRoyのことばを聞きました。びっくりしました。でも分かりやすかったです。  |
| 幾何学を勉強中ですが、今日聞いた数学を勉強したいと思いました。  |
| とても面白かった。子どもに聞かせたかった。  |
| 社会と数学のかかわりが分かり易く有意義であった。   |
| タイトルに密着した講義でした。  |
| 数学公式の背後にある人の思いを知ることが出来、数学を見る目が変わりました。ありがとうございました。ビデオを使い、明快な講義。これこそサイエンスナビゲーターの本領発揮だと思いました。素晴らしい公開講座でした。                              |
| 数学の対数計算の、大変良かったと思います。ましてや自然対数、常用対数が17世紀に完成したものはただ驚くべきものでした。今後、これを考えながら数学という学問に接していきたいです。   |
| 講師が熱く語ってくれて、内容も具体的で良かった。   |
| 高校生のときに聴けたら、数学観が変わっていたかと思いました。   |
| 映像もあり、難しい内容を分かり易く丁寧に教えてくださり、講義は楽しかったです。また聴いてみたいので  |
| つい最近、指数対数を学んだので、とても興味深かったです。途中で理解できない難しいところもありましたがとてもよい体験でした。尊敬している桜井先生の講演が体験できて本当に嬉しいです。ありがとうございました。対数というものをこれまで考えたこともない視点で理解できました。 |
| このような素晴らしい講座は、是非新聞紙上に内容を公開いただきたいと思います。   |

第4日目(講師:国際社会科学研究所 小林正人教授)

|  |
|--|
| 統計の読み方、すなわち単純に見てはいけないということが分かった。いろいろなケースを例に引用されての講義で比較的的理解し易かったが、資料(プロジェクター)の提示がもう少しスムーズであればもっと良かったと思う。ユーモアがあり、なかなか良かった。 |
| 非常に面白い内容で興味ももてた。これからの統計の見方が変わるように思います。ありがとうございました。   |
| 結果が分かっているものについて処理するのは易しいが、全く結果が分からないものについて予想するのは難しいと思いました。社会に役立つものであることがわかりました。ありがとうございました。質疑応答の時間をとっていただけてよかったです。       |
| 身近な生活環境の統計学だけに有意義だった。  |
| 本日の講義の中で話されたようなパラドックス(統計上)が多く見られること。データの取り方、その結果の判断に注意が必要であることに改めて気付かされます。講義ありがとうございました。                                 |
| 今までグラフのデータに疑問を持っていたが、今日の話で交絡要因があるのに見落としていて、みせかけのデータがあることがわかって納得!! 交絡要因にとれない意欲・能力などが結構重要なのではと思います。面白かったです。                |
| シンプソンのパラドックスは知っているのと知らないのとでは、統計結果を新聞で見たときに自分なりにそれをどの程度信じてよいか判断できると思います。  |
| 配布資料も無く、派手なPPTもありませんでした。内容的に分かり易く、良い講義だったと思います。派手なマスコミ受けするプレゼンも好きですが、今回のようなシンプルなプレゼンも良いですね。                              |
| とても実用性がありそうな話だった。今回は統計屋の視点で話を聞いたが、逆にみせかけの正の相関を造る側の立場になっても考えてみたいと思った。   |
| 統計データを見る場合、その背景を精査しないと判断を間違える可能性があることが理解できました。同じ土俵で比較したものでないとあまり意味が無いということと考えました。  |
| 極めて分かり易い例を示しながら、統計を判断するための前提条件(交絡要因)の重要性がわかった。   |
| 交絡要因、層比などの意義を理解できました。ここで、回帰分析が必要になることなど聞いたことも有意義に思えました。計量経済学について調べたい。  |
| 身近な問題現象を読み解くヒントをもらい、興味を持って今後仕事の中でデータ分析して行きたいと思いました。  |
| 普段のニュースや資料など統計的データを見ることはあるが、どう判断していいか悩むことが多かった。その原因、そして判断に有意義な講座でした。丁寧な解説で分かり易く、いろいろな具体例があり分かり易かった。                      |

第5日目(講師:経済学部教授 宇井貴志教授)

難しい数式や理論ではなく、身近な例での説明でよく理解できた。交換とか貨幣の発生等、大いに興味深い話であった。「市場」の役割も理解できてよかった

実務から研究者に進まれた結果、宇井教授の講義は流れがよく出来ていて理解し易かった。マネジメントのセンスを散り入れた内容は必要に良かった。今日の講座は現実的な視点で社会のジレンマについて講演されたことは評価できる。ありがとうございました。

経済は学問で無いように言われているようですが、今回の講義でその考えていることが間違っていることが分かりました。非常に役立ちました。

経済学の初歩的な分野で、分かりやすい説明であった。難しい内容のも聞きたい気がする。

日常意識していなかった経済活動を理論的に解説していただきました。需要と供給のバランスのロジックはとて分かり易かったです。

経済学に対するイメージがかなり変わりました。ありがとうございました。

大変興味深く伺いました。時間がもっと欲しいと思いました。

市場についての説明がとて分かり易かったです。経済学者の市場に対するスタンス、市場のメリットの意味、デメリットについてもよく言われる内容との違いが分かり易く伝わったように思いました。数学で表現することで一見違うような現象の中に共通のロジックが見えるという点も分かり易かったです。

とて分かり易く有意義な時間をすごすことが出来ました。説明の順序が一般の人にも理解できるように工夫されていて参考になりました。

・始めのイントロのお話からぐいぐい引き込まれてました。「数理工学」の説明に「方法を創る」と出てきていて、先生の心意気を感じました。

・佐賀銀行のビデオが良かったです。ゲーム理論による分析のリアルさ・強力さを実感できました。

・「価値の比率」の話から「需要と供給」の話につながるところが目からうろこで、長いことぼんやりと抱いていた疑問が解決した気がしました。(まだ少し「だまされた感」も残っていますが…数学的な厳密な説明(証明)も見てみたくなりました！)

・「社会的ジレンマ」を「市場の失敗」と考えることが出来るという話に「なるほど！」と思いました。

市場の動きの説明が良く分かり、現在直面している日本、世界の問題に置き換え考えさせられた。論理的、数学的には理想市場は出来ても現実には複雑で難しい。

第6日目(講師:帝京大学経済学部 小島寛之 教授)

数学者であり、経済学者ということで、発想がユニークなお話で興味が沸いてきました。日本の経済は統計が正確でないので、マクロ経済学の将来を展望できないのが残念です。特に有限なものについて投機をしてはならない倫理が必要であり、この点の話が聞きたかった。

経済学にも数学が必須であることが、広く強調されております。(先週の講座でもこのように感じました)しかし現実には経済学部に進む学生のほとんどが数学を深く学んでいないように思います。数学科出身の先生にこの点を確認したく思い、また実際に大学でどのように対応されているのか知りたいところです。

いろいろな見方があり、参考になりました。考え方が面白いので数学に興味があります。今後とも小島先生の本を読みながら楽しみたいと思います。

数学の難しい問題が解けたときのすっきり感を味わえました。経済学が人類の幸福になることを願います。人間が思いやりの心を持って生きていけばよいのでしょうか？

数学＝抽象化の技術ということを改めて実感しました。

数学を教える立場として大変プライドの持てる内容でした。自信を持って授業を進めて行きたいと思いました。

数学的思考に親しむことが出来ました。ありがとうございました。

数学者のエピソードがとて興味深かったです。

この世界と数学の新しい関係を教えていただいた。とて興味深い講演をありがとうございました。

「テクノロジーとしての数学」の話題が盛りだくさんだったからこそ「役に立つ・立たない」はどうでもいい、という話に説得力が出たように思います。

楽しい講義でした。文学に通じることもあるんですね。

数学科出身の私ですが、主婦として派遣社員を経て今また主婦生活をしているので懐かしい数式に会って興味深く受講できました。実生活とのつながりのある本を今後読んでみたい。